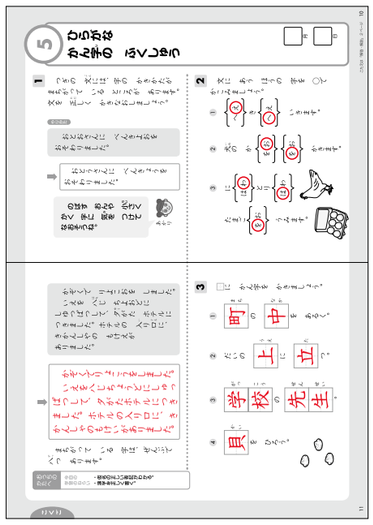
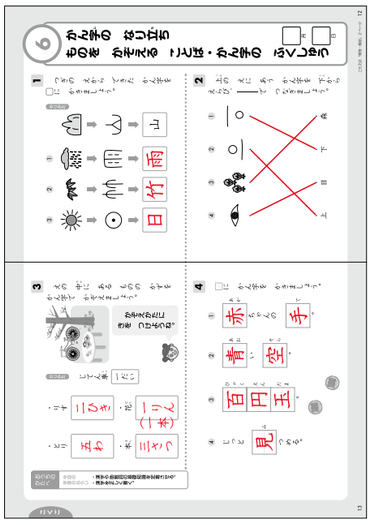


第5回 トレーニング

1 長音、拗音「ゃ」「ゅ」「ょ」、促音「っ」の正しい表記を確認する問題です。まず問題文を声に出して読み、どこがまちがっているかお子さまに指摘してもらいます。まちがっている字に印をつけたり横に正しい字を書いたりしてから、解答を記入するとよいでしょう。解答の文の見直しも忘れないようご指導ください。

2 助詞「は」「を」「へ」の誤記はよく見られます。文を声に出して読み、答えの適否を確かめましょう。

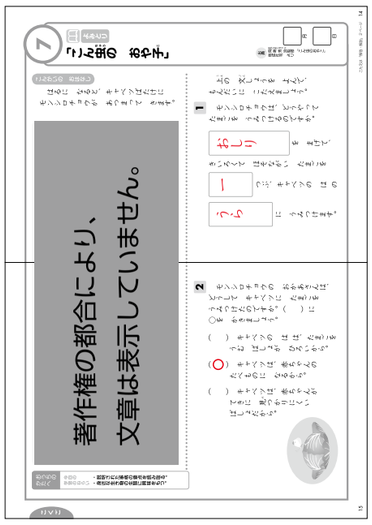
3 お子さまと一緒に教科書などで正しい字を確認しながら答え合わせをしてください。まちがえた字は、余白に正しく書き直しておきましょう。



第6回 トレーニング

1 **2** 一年生で学習する漢字には、漢字の組み立ての基本部分（部首）となるものが多くあります。今後の漢字学習に大いに役立ちますから、おおまかな成り立ちを覚えておきましょう。**1** の象形文字は、絵一篆文書の流れを手がかりにしましょう。**2** は、指事文字「上」「下」、会意文字「森」が含まれ、**1** よりも難しくなっています。口頭で次のようなヒントを出してあげてください。

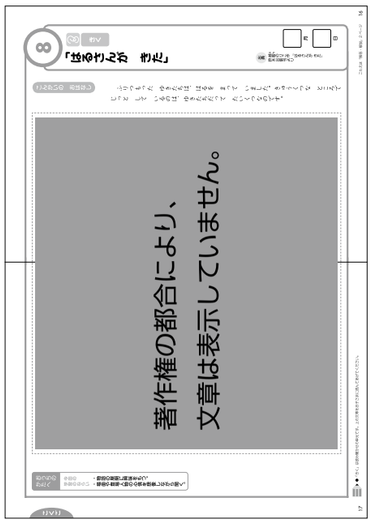
① 線（決まった場所）の「下」を表します。
② 線（決まった場所）の「上」を表します。
③「木」がたくさんあることを表します。
④「目」の絵からできた漢字です。



第7回 トレーニング

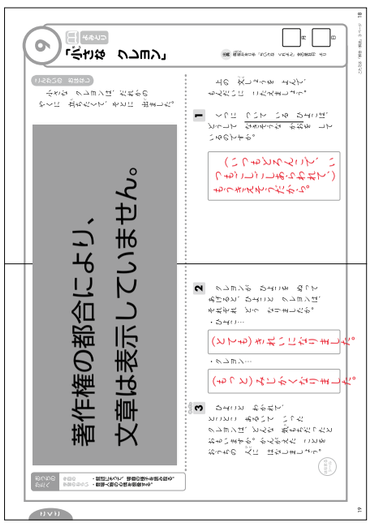
1 第一段落の内容を読み取ります。答えの言葉を見つけたら印をつけるなどして、読み落としを防ぎましょう。

2 モンシロチョウの産卵場所は、キャベツなどアブラナ科の植物に限定されます。最後の段落にそのわけが書かれています。正答選択肢は段落内容を要約したものですから、わかりにくかったかもしれません。正解であっても、なぜその答えにたどりついたのか、解答の根拠を必ず確認してください。お子さまの説明を聞いて内容を正確に把握できていると認められれば、「モンシロチョウのお母さんがキャベツを選んで卵を産むわけをちゃんと読み取れたね。」といった言葉でほめてあげましょう。



第8回 トレーニング

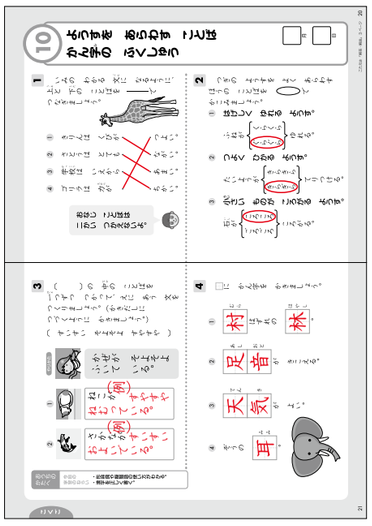
春を待つ雪たちの思いを描いた作品です。「まだですか」「まだですよ」の応答を繰り返す気持ちや、「はるさん」に出会った驚きと喜びなどは、お子さまにもよく理解できると思います。読後に「○○ちゃんが『はるさん』を見つけたら、どんな気持ちになるかな？」といった質問をしてもよいでしょう。とけて水になり、「ちいさいの」に吸い込まれる姿を想像して、雪がかわいそうだという感想をもった場合、雪を思う優しさを尊重しつつ、雪たちは喜んでいること、冬になってまた雪として降ってくること（水の循環）を教えてあげてください。



第9回 トレーニング

1 「いろがうすくなったから」という解答も場面をつかめているといえますが、ひよこの悲しみは会話中の「きえそう」に表れています。「どうして色が薄くなったのか、ひよこが話してくれたみたいよ。」などと言葉をかけ、会話に着目するよう促してください。なお、記述内容が適切であれば、解答例の（　）部分がなくても正解です。

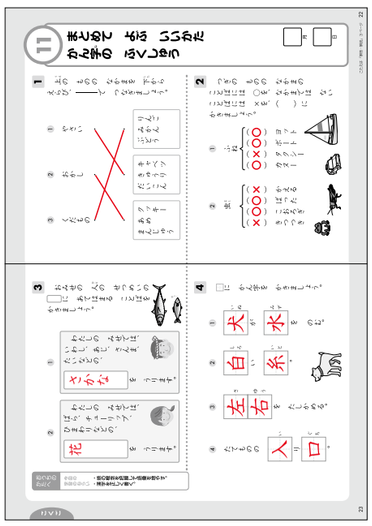
3 「気もち」だけでなく、そう考えたわけも尋ねてください。物語の展開にそって「うれしい」などの満足感を想像していれば、「ひよこの役に立てた気持ちを考えていたんだね。すごいなあ。」などとはめてあげてください。一方、「かわいそう」などと感じたお子さまは、犠牲を払った行為に心を痛めているのだと思われます。その感情を優しく受け止めてあげてください。



第10回 トレーニング

1 ①「きりんは　くびが――つよい。」という文もまちがいとはいえませんが、この問題では同じ言葉は一回使えません。つないだわけを聞いたうえで、問題のルールを確認し、どの文も成立するつなぎ方を見つけるようアドバイスをお願いします。

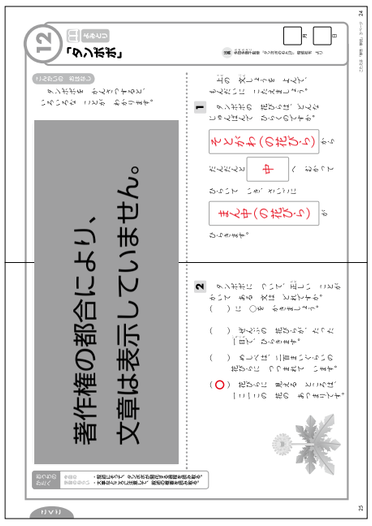
3 擬態語は特定の言葉だけを修飾するわけではありませんが、一般的な用法は覚えておきたいところです。「すやすや」は眠る様子、「すいすい」は泳ぐ様子と理解していたら、少々独創的な表現でも正解としてよいでしょう。理解が不十分なら、「絵に合う言葉は何かな？」などと再考を促し、擬態語の使い方を教えてあげてください。



第11回 トレーニング

言葉を習得するうえで欠かせないのが、概念（言葉の表すイメージ・意味）の把握です。一年生の段階では、個々の事物を指す言葉（下位概念語）と、それらをまとめて呼ぶ言葉（上位概念語）があるということ、すなわち、言葉と言葉には相互につながりがあるということに気づけばよいでしょう。こうした発見が、「平和」「社会」といった、より抽象度の高い言葉に出会ったときに深く考える素地となります。

3 お店の人が「売っているもの」をまとめて呼ぶ言葉を答えましょう。会話文の内容がつかめないようなら、「『いわし、あじ、さんま、たい』などを売るお店は、何屋さんかな？」などと問い直してみてください。



第12回 トレーニング

1 「……から……ひらきは」「そして」「さいごに」という表現を見逃さないことです。これらの表現に印をつけて、順序を正しく読み取りましょう。

2 選択肢内容の正誤を判断するには、読解の鍵となる言葉を見落とさないことが大切です。正解であれば、問題文のどこを見て判断したのか確認してから、注意深く読めたことをほめてあげましょう。一つ目を選んだ場合、問題文の「つぎの　日」に着目させ、すべての花びらが開くのは翌日になることを丁寧に説明してあげてください。